古今要覽稿

屋代弘賢自筆原稿

草木部橘

三

特 7
124

取扱注意
帳入

[illegible]

此品我邦ニ一種アリ 一種唐ヨリ来ル 果樹

稀なり 昨年これを朱欒なりといふて （御用 關根當濟）

総香取郡松崎村にありしものは樹高さ七八尺にし

て刺あり 枝の葉ハ橙の葉に似て 年一度に実

四五十顆を結ぶ 其顆ハ柿の如くにして 極

大圓きハ凡一尺三四寸 これを柿に比すれハ 柿も

皮上の麻點ハ凡てもなくして 橘と同じく 雛を

取て実をもつるもあれども 其核ハ却てその麻點ハ

此實ハ熟して 其中の種子を排列せしの

437-134

古今要覧稿巻弐

草木部 樹

咬𠺕吧蜜柑（ジヤガタラミカン）

咬𠺕吧蜜柑は一名座保牟（ザボン）一名座牟保（ザンボ）即柚の（[illegible]）種なり時珍これを朱欒なりといへるは（[illegible]）ゟ総香取郡松沢村にはかりの一樹あり高さ七八尺にして刺あり枝の葉稠に繁茂し年ことに実四五十顆を結ぶといふ其顆大さ柑のごとくにして極大なるは凡一尺三四寸これを秤にかくれは[illegible]皮上の麻點は柚よりも粗にして橘と同じく錐を以て突たるがごとくそれを以て剥て其の麻點皆高く起りて瞭なる事は[illegible]葉實子を掤剖むし一つ

437-124

かしその皮は白膜多く厚さ六七分ありて潔白
なりその瓤白く緻しく淡黄色を帯味醇く
瓤は先堅しその中心なる虚白膜にして瓤
なるその園圃に於てつくれる草是代々（タイタイ）の葉の如
くにして極て大なり其さ四寸許濶さ二十餘も
粗き鋸歯あり一枝の葉ことにしてもとより二葉あるの
なしまた二葉あるは偏く二葉とも一様ならず
初夏の比枝上に花を開く（瓣の）白色を帯き香り芬芳
なり花中蕊多くして後實を結ふ自から遂て大
成し冬に至りて熟すの方言これを咬嚼
吧といふ此樹むかしより凡十餘年以前に閩
商船の市に携て代々の樹に接成せしを求ると
て却て此種を求めるものといへとも家實を採て全
形のまゝを味噌に漬し貯置て以て酒肴に供
するものなり又紀州（個）の方言に佐年寿（サニス）といへるもの是
こゝも類形粗にして熟すれは色黄なりて大さ分ち繁相と
おなし皮は少なく咬に酔を經て中に氣を集め
ふるくそうきといふ其の國の人いふ平淵当
て此種を植て苗を生して高さ一尺五寸許
のものは何れ二三年にして條と一樣なりといへとも

これは古き銅鉄剤銅の類にして根の傘の如し
針刺何ともなく見えされば凡そ類何なく其の
樹嫩なる時は刺をもつ古く成る時は絶えて刺
なきものゝ中にも何ほどか佐年（サニス）なる名くし咬噌吧と
同様なるべし 一種 都保（ツホ）座保牟（サホニ）一名咬噌吧
家相といふか何とこれは類の形なるが如くなりいやし
ちく上大小のみにしてこれは細微なる壺の姫なれども其の
名を分布せりこれは汁液の多なる壺柑（中）
胴何ぞ見えて 鰡柑 上 全といふなりのみて 壬膵蔵 是れ 月
なれば朱欒なりといふ 朱欒は原に色朱赤

色なる柑橘の方言也 図 朱橘の名にて通雅
なりし何にも古き名に咬噌吧なる 壺座保牟（サホニ）の
類の数なれば色なる柑なりて朱欒は即ち朱の土也乃
柑子の仲間にて其の名の如し

趙八云 西土にて朱欒と称
するものを種子 橘錄 枝誌
詳なる図出も見えず多くなるしかれども其表にあらず
朱欒枝葉多刺花蓮子攢其葉芳馥浅剛皇常実大
如瓯皮厚味酸甚不可食但其樹可接柑橘といへる
甚し名の此亦なる事とはいふこれは一種なり今按に
柑なる種の中に多く柑にて蟕紅かれし朱欒のごとき柑
此種大朱なるにて種あるは朱欒か大橘
これなる 椒の如きやうにしてこれ種の猴甚酸くして
色潔白なりその蒂附の小さき所は白猴のごとし
これ大なる所は瓤何なり色紅なりて味酸きなるを云

如
メイメイ
メイメイ

ゑさのかうち甚多し。凡四國九州ニ有ル諸種

類アリ　まち〳〵いつれ関東にてコはさの外といふを

△今おも按目　甚く稀なり　△

（阿部將翁の説にも庭中にもありし　此樹一株有りて年ニ七ヶ月実を結ぶといふなり）

大和本草云本草ニ朱欒ハ柚ノ釋名ニ載テ別ニ條不

立橘譜曰朱欒顆圓實皮麁瓣堅味酸悪不可

食其大有至尺三四寸圍者摘之置几案間久則其

臭如蘭今按是ザンボナリ時珍云柚大者謂之朱欒最

大者謂之香欒朱欒類近年本邦ニモ多シ柑橙ノ属ナリ

大ナルヲザンボト云葉ハ柑ニ似タリ實ハ橙ニ似テ其大サハ圍

一尺五寸ニイタル皮黄ニ肉厚ニシテ香シ色黄白ナリ鹽或ハニ

藏ムヘシナカゴハ酸クシテ不可食是本邦ニ所在ノ諸果ノ

最大ナル者ナリ長崎ニ多シ他州ニモアリザンボニ數種アリ

一種上スコシ尖ル味アシヽ上スコシクボキアリ味ヨシ一種肉

赤シ食フヘシ一種橙子ヨリ甚大ニシテ頸アリ色黄ニシテ

味良實ハ下リ垂ル事諸果ニ異リ一種クビアリ橙子ノ

大サナルアリ味酸ク悪シ又一種頸ナク凹ク多橙子ノ大

サナルアリ肉アツクナカゴ小ナリ可食又味酸多不食モアリ

猶形味大小ナルアリ小ナルハ俗ニジヤガタラミカント云朱欒

ナリ葉ハ橙柑ニ似タリ枝有刺或無刺其實世人

乾作器納茶香烟草

本草啓蒙云。時珍ノ説ニ小者如柑如橙ト云ハ常ノ柚ナリ
大者如瓜如升ト云ハザボンナリ筑前ニテザボント云土州ニテ
ジャボト云京師ニテジャガタラミカント云此ハジャガタラ柚
ノ誤ナリ大ナル甜瓜ノ如ク形榠樝ノ如シ本狭ク末廣シ
色黄白肌粗ク柚ノ如シ皮ノ厚サ六七分ニシテ色白シ穣モ
白シ皮穣共ニ至テ苦シ穣中ノ長粒味酸シ沙糖ヲ加
テ菓トス是朱欒ナリ

。本草綱目云柚色油然其状如卣故名壺亦象形其
大者謂之朱欒亦取團欒之象最大者謂之香欒廣
雅謂之櫾柚櫾亦壺也桂海志謂之臭柚皆一物但
以大小古今方言称呼不同耳

五雑組云閩廣有一種柚如瓜者方言謂之抛蓋其
蒂最牢任風抛擲而不墜也其色味殊劣矣又云柚
花白花似玉蘭其香酷烈諸花無與敵者

。東雅云、永[illegible]時大明の人来て[illegible]ありけり
舜水の朱之瑜といひし人の此といひし[illegible]清國[illegible]
柚といふ[illegible]柚といふものゝ紅白の二種ありて
蒂の[illegible]にてなりけり
閩廣にありといひて[illegible]國の如き
蘇敬本草に柑といひし[illegible]云云

唐九年母。

唐九年母ハ咬𠺕吧蜜柑の一種にして其味最
大なるもの也九州にては此をもて座年保といふて
賞翫す紫白の二種何れも節ありて紫なるを
香欒なり（本草綱目）當年肥後國より來るものを
こゝにて雛極て大にして圓く凡さしわたし五六寸に及
ぶを咬𠺕吧にすべて咬𠺕吧ハ肌粗く其皮厚
皮をむきて房上に種子を排列せしが如く
其肌光滑にして其皮薄し
平坦にして香氣甚だよきなと異なり又咬

メイメイ
△大くねし

嘈吧大頸上の正中稍くぼミて花落跡の環ありて
かさふしたるものたるの環大小して頸上くぼまりたるを
[illegible]と云ふ物々何よりの唐九年母たる皆其色又
堅きハ形円色紅にして（橘欒）西洋にてハ大 此種紅
色の種く ぼうらし みやう うちむらさし

まゝ漢名の[illegible]ホンホロモウスとよふ[illegible]の樹あり
高さ一丈許葉ハ代々の葉ニ似て稍大にして[illegible]
鈌刻ありて上の葉廣闊にして下の葉細小[illegible]甚大一
て毎枝白花を開く[illegible]柑花に[illegible]
辨花後[illegible]芳香あり実を結ぶ[illegible]
尾一尺七八寸廣[illegible]して色淡黄其肉最甘く
熟して[illegible]味酸く[illegible]熟
[illegible]林檎を喰ふ[illegible]橙大頸の[illegible]此[illegible]
[illegible]蛮柑橙の[illegible]朱欒
[illegible]を小石川御薬園に栽[illegible]

ニテ内ムラサキト云白色ナル者ハ粒味酸ク下品ナリ此外
形状異ナル者数品アリ總テザニボト呼
廣志云成都有柚大如斗
本草綱目云香欒爾雅謂之櫠（音廢）又曰椵（音賈）郭璞曰
櫠大柚也實大如盞皮厚二三寸子似枳食之少味
范成大云廣南臭柚大如瓜可食其皮甚厚染墨打
碑可代氈刷且不損紙也
橘錄云香欒大於朱欒形圓色紅芳馨可翫

欒包 柚の柚んこするとおふ 寛政十二年の秋に是
を渉海の九華園より 稿させれしに これなき 香欒ふ
しれ ホンボロ モウス太郎云の一義者を申

タイタイ
△大くまちんし

本草啓蒙ニ一種香欒アリ コレモ九州ニテザンボト云 一
名ザンボウ 豫州 トウノ子ニボ 日州 皇虎ニハ青シ 雉血
国九州ニ多シ 形圓扁大サ六七寸 肌細ニ黄色ニシテ織
絲ヲ帯ブ 香氣多シ 皮厚サ六七分ニシテ白シ 穰ニ紫色
ト白色トノ二種アリ 紫色ナルヲ上トス 粒ノ味甘シ 筑前
ニテ内ムラサキト云 白色ナル者ハ粒味酸ク下品ナリ 此外
形状異ナル者数品アリ 總テザンボト呼

廣志云成都有柚大如斗
本草綱目云香欒爾雅謂之櫠（音廢）又曰椵（音賈）郭璞曰
櫠大柚也實大如盞皮厚二三寸子似枳食之少味
范成大云廣南臭柚大如瓜可食其皮甚厚染墨打
碑可代氈刷且不損紙也
橘録云香欒大於朱欒形圓色紅芳馨可翫

加布留

加布留ハ旧ヨリ枸櫞のなのことくなれとも（本草 和名）此木これ

を旧佛手の柑といふこと甚謬る佛手の柑ハ似て形

同からるを以てかりけれ是ハ木犀草ニ似て香気あり

及橙柑の類にて皆其葉の本ニ小葉有ることこれ多かれ

小葉あるく樹ニ刺有也（本草 啓蒙家）（岡村尚謙之説ヨ）手ニ開キ有て其の葉ハ

其葉ハ淡緑色ニして厚く周圍ニ細鋸歯あり

四月の頃枝梢ニ五瓣の白花を開き花中ニ実

を結ふ其実ハ生でハ緑ニ熟致れハ黄なり其形の

如し西土ニては是を長さ一尺四五寸ニ及ふもの

何りといへるは鉩橘皇国のかのものもちさ四五寸圍ニ三四寸ばかりありて皮厚く若橙而光澤可愛肉甚厚切如蘿蔔（圖經）これを横に薄く切り砂糖に漬たるを佛手柑漬といふ（わざは蜜煎）或は蜜煎或淹となし（大和本草）法製の芳香久に耐るものとなしこれを香円と名づく鉩橘ゆずる枸櫞といへるは梅なし刺何る事さるのなきなり故古へこれを加布知といへるは枸櫞可ふ香櫞ニ非ざるも（櫞音縁 和名鉤）（ゆゑんとより）古の俗名の訓なるもしれりよけれ雅集の樹ハ何ものの大さも稀ニ掛ル矮成の矮小まうけのかきばえ南方暖地ならではなきものなり二三樹あるべき一丈ばかりにならざるといふべし

新修本草云（和名）枸櫞（上音俱禹反 下尸全反）枸櫞似橘也 出七巻食經 和名加布知

大和本草云 枸櫞昔本邦無之 近世来ル 味ハ不堪啖 菓只蜜ニ煎或淹トス 香味ヨシ 其木寒ヲ畏ル 南方暖地ニ宜シ 或ニ北土ニハウヘテモ不茂 本草ニ置衣笥中則数日香不歇トイヘリ 今試ニ然リ

本草啓蒙云 枸櫞佛手柑共ニ暖地ノ産ニシテ寒ヲ畏ル 育シ難シ 佛手柑ハ冬月窖ニ入養フトイヘド實ヲ結ハス

香櫞ハ實ヲ結ヒヤスシ二種共ニ葉ハ木樨葉ニ似テ鋸
齒ナク香氣アリ柑橘橙柚ノ類ハ皆葉ノ本ニ小葉アリ
此二種ハ小葉ナク互生ス樹ニ刺アリ枸櫞ノ実ハ柚ニ似
テ微長肌細ニ〆香氣多シ熟〆黄色内ハ白色ニ〆穰
核共ニナク蘿蔔ヲ切ルガ如シ横ニ薄ク切リ沙糖ニ漬
タルヲ佛手柑漬ト云秋櫞春櫞ノ二品アルヿ般山
志ニ見タリ

○崑

圖經本草云枸（音矩考鉤）亦櫞（音沿）如小瓜狀皮若橙而
光澤可愛肉厚切如蘿蔔雖味短而香氣大勝柑
橘之類置衣笥中則數日香不歇古作○五和糝（素感切）

所用陶隱居云性温宜人今閩廣江西皆有彼人但
謂之香櫞子或將至都下亦貴之
橘錄云香圓木似朱欒葉尖長枝間有刺植之近水
乃生其長如瓜有及一尺四五寸者清香襲人嶺南
多有之土人置之明窗淨几間頗可賞翫酒闌并刀
破之蓋不減新橙也葉可以療病

〇但嫩葉紫色あらしも花を開くものハ紫色なるものなりといふ

佛手柑

佛手柑ハ一名を佛指香櫞或ハ佛爪香円などいへり（八閩通志）に云樹ハ状柑に似て葉ハ大累枸櫞と相同し〇に云顆大なるハ圍ミ八九寸長さ六七寸其形ハ人の手に似て指の如く本より末ハ又わかちて恰も人指に似たりその指の如きものハ多くハ長短の異なるあり五指なるつ分れを五指柑といひ（廣東新語）十四なるものあるを十指柑といふ上生或ハ又指伸ずして握りたる形のものあり是を俗に一二ばかりといへ今種樹家は稀を得是らハ其形のやうに何ぞ果中の最奇なるものなり

多し

八閩通志云一種色味皆如香櫞形似人指名佛指
香櫞又名佛手柑亦名花柑又云有佛爪香円福人
謂之佛手柑

廣東新語云 其狀如人手有五指者曰五指柑有十
指者曰十指柑亦曰佛手柑有單拳有合掌不一花
開而見其子於萼中成長而如小瓜皮如柚而光澤
肉厚色白如肪亦鬆虚味短惟香芳大勝香櫞經久
不歇或搗大蒜罨其蒂上則香更充溢以汁浣葛紵
絶勝酸漿水也

本草啓蒙云佛手柑ハ俗ニ手ブシユカント呼フ實ノ形長
大ナリ肌粗メ柚ノ如シ熟メ黄色香氣多シ本ノ方ハ圓ニメ
柚ノ如シ半ヨリ末ハ細ク分レテ人ノ指ヲ列ヌルガ如ク十餘
指アリ初ハ指ノ末内ニ曲リ後ニハ直シ切レハ内色白メ穰
核ナシ

杜柑

杜柑は旧説に櫞の椴の字なりとあれど誤なり（鈔）今阿蘭陀の類にして菓子蜜柑に似て鉄気あり酸あり上に来る鍋大にして其実も稍にして細小なる実ありて甘し蜜柑に似て二間との慶理網羅山なるを食ふ柑子と称にして味の酸きてある蠟なるが柑の如しあかりて唐人柑子とならべ称して菓子とす唯柑柑大即此柑をなきしていふなる中継ともの座年頃なりとも和漢説あれど（和漢三才圖會）これは櫞大柑也といふ説ありもよりて其外のいつるなりされど座年頃の

鶉火近年本邦にわたりしよりたかきいやしきの中に翫ふる
たゝいやなりとして或は草木のこのみにもてはやさる　その
實をとまふ後といふもの甚し擬擬なと称せし柚柑と
訓せし古人の旧説の誤なるへし
和名鈔云爾雅注擬擬（廣加二音漢語抄云柚柑）柑属也（本草和名擬新撰）本草擬
擬をは擬子と称し橙ともいふを同つし
崔禹なりて爾雅なとみえ一の考
庭訓往来云樹木事梅桃枇杷（干着）柚柑々子橘雲
州橘今稱柑ハ下品之所為と名植ふる
東雅云和名鈔に擬擬二字をならひ注してユカンといふ字
右何ぞ爾雅擬なれの擬一名擬といふものみえしなり漢
語抄にユカンといふは柚と柑との二ツを兼たる擬也
まることなり本草の佳草にとられしも此ことなり本節
をユカンといふは擬を味の類を挿ふなり

金柑

金柑は近世に在なり（橘録 韓彦直著）にも此来多紅皮大なると
いふ（多識編） 今種樹家にありこれを寒さにて二善（綱）
小なる橘に似て実を結ぶ大さ枇杷のごとくにして色
黄なり 毎歳美濃の郡上郡八幡侯より献
一種橘なりと東都に貢献す（武鑑） 一種金橘（俗に橘錦）
豆金柑といふ 又山金柑（橘錦） 金豆（泉州）とも名づく
実ちいさく櫻桃のごとし 又牛奶金柑（往事通史） 今
これをナカミノ金柑といふ 形ちくびの棗の如し
故に世に金棗と名づけ（泉州府志） またいふ 馬柑と名づく

（江陰縣志） 時珍以下往事通史等をすべて金橘と称して
金柑と同種とす 西土橘録の中にも其説合して
異なり 佐藤成裕云 一種金柑 薩摩人名曰大貫
金柑 其葉似金柑 其子如円青橙而大 色味與金柑
無別（琉球百花図） 今按 時珍は金橘 給客橙を一種とせし
給客橙も甚異なし 此実の金柑をさしていふるにや
然らざれども金橘の小なる物と給客橙の大なる物と
混同すべきことなしとおぼゆれ 尚可考
橘録云 金柑比他柑特小 其大者如銭 小者如龍目
色似金 肌理細瑩 圓丹可翫 嗽者不削去金衣 若用

以漬蜜尤佳歐陽文忠公帰田錄載其香清味美置
之樽俎間光彩灼爍如金彈丸珍果也都人初不甚
貴其後因溫成皇后好食之由是價重京師

又云金橘生山逕間比金柑更小形色頗類木高不
及尺許結實繁多取者多至數升肉瓣不可分止一
核味不可食惟宜植之欄檻中園丁種之以鬻於市

亦名山金柑

本草綱目云金橘生吳粵江浙川廣間或言出營道
者為冠而江浙者皮甘肉酸次之其樹似橘不甚高
大五月開白花結實秋冬黄熟大者徑寸小者如指
頭形長而皮堅肌理細瑩生則深綠色熟乃黄如
金其味酸甘而芳香可愛糖造蜜煎尤佳

泉州府志云金棗有二種形長者曰金棗形圓者曰
金橘又云金豆俗呼羊矢橘生山林中蜜煎良佳

江陵縣志云金柑實小如彈丸木高三尺許一種長
寸許者名馬柑

からたち
加良多知

枳（からたち）ハ和名也　枳者なり　根実の名をとまかて　延喜式

枳本草　は榠樝の苗俗に名之けり只枳殻枳實　新撰

草

葉圓にして實これあまた付て生ず　[illegible]　榠樝のものなり

昔より是を朝鮮より渡し時　植事とし

木の様なりて此樹ハ高さ一丈あまりの木にて葉ハ橘なる

橘の葉に似て厚くして其色あをくして冬も凋まず　無

枝に刺あり　枸櫞の刺に似て棘のさし　晩春　五

辧の白花を開き秋に至りて実をとる　これ（くすり）

橘の如くにして口小さく橘のことく其実を取て[illegible]

近のころほひ大明宣徳中商船上まゐるの後は〻の
〻多く薩摩に来りこれあまた樹をうゑ
まらひに摂津の国にうつし　摂延寿山城
大和摂津若狭加賀等よりうつり真名をかきて
毛載これあつかひて〻のよりこのにほひ
しけり今〻名を洋のふにてこれに加へられた
印韓字の〻太知太郎太知〻の異語加
（太知是の名〻〻〻〻）　加へたるふ〻〻
朝鮮よりわたりて〻〻〻〻橘〻
わかれ古人これをとかく〻〻〻〻〻〻〻

綿をとる多くの人この気分ちといつて薩摩〻〻
[illegible]太三椰數〻沈只六文所ハ番舶〻〻十一丈
出ス外ハ品ヲ用新渡ヲ唱大小混雑多シ以
數多ク三十二三寸人〻〻〻
様ト唱ヒ者眞物十寸以下今其様ソノ稀ナリ小
流有舶来數品アリ古渡ノ中薬舗ニテ一萬ノ
リ由宜アソ擇ブベシ秋ニ至リ採リ章カ以体

[illegible]
寛政十年八月　米吉
亨元大吉　米吉

一 ちの[illegible]の大即字保中商船上まる[illegible]の徑と[illegible]

く多の〻薩摩[illegible]地まさこれあり 樹[illegible]

すらひに摂津のあたりあり 按延喜式に山城

大和摂津若狭加賀等より枳実を貢す[illegible]

あ載これによれハ[illegible]

しうり今[illegible]を[illegible]に加ら[illegible]

即韓字の[illegible]太知[illegible]即太知[illegible]の異稱 加良

太知是の名[illegible]新撰 加[illegible]

字の鏡[illegible]

朝鮮より[illegible] 橘[illegible]

あ[illegible]古人これを加ら[illegible]

[illegible]薩摩等眞

橘と[illegible] 疎[illegible]

本草啓蒙云枳キコクノキヲカラタチト訓スルハ非ナリカラタチハ次ノ條ノ枸橘ナリ枳ハ和産ナシ今ハ韓種多シ樹葉共ニ柑ニ似テ木ニ刺多シ夏月白花ヲ開ク亦柑花ニ似タリ實ハ柑ヨリ肌細ニ〆皮厚シ小ナル時採タルヲ枳實ト云最早ク採タルハ至テ小シコレヲ鵞眼枳實ト本草原始ニ云リ和名ニ茶實様ト云フ偽物多シ皮ノ色黒〆内ニ穰數多キ者佳ナリ其皮色緑ニ〆毛アリテ内ノ穰數少キ者ハ枸橘ノ小ナルヲ乾タル者ナリ又朱欒（ジヤガタラユ）及橘柚（カウジ）ノ小ナルヲ乾タルモノアリ宜シク擇ブベシ秋ニ至リ採リ乾タルヲ枳殻ト云船來數品アリ古渡ノ中藥舖ニテ一萬ノ様ト呼ビシ者眞物ナレ𪜈今ハナシソノ穰形小ク數多クシテ十二三アリ今ニ新渡ヨリ撰ビ出セバ此品アリ新渡ハ皆大小混雜多シソノ

邸韓字の事は太知花邸太知此字の異名加究

太知花の名は新撰字鏡にも見えたり加羅太知と名付けてある

朝鮮より来りて此菜を唐すべて橘と称る

なれば古今これを加らたちと云ふ此名の字を用る事也けり

稀なるものゆへ人々の目にみなれたる蕃籬芳溟

橘との名に似たる疎鴉の字をあてたり

本草啓蒙云枳キコクノキヲカラタチト訓スルハ
非ナリカラタチハ次ノ條ノ枸橘ナリ枳ハ和産
ナシ今ハ韓種多シ樹葉共ニ柑ニ似テ木ニ刺多
シ夏月白花ヲ開ク亦柑花ニ似タリ實ハ柑ヨリ
肌細ニメ皮厚シ小ナル時採タルヲ枳實ト云最
早ク採タルハ至テ小シコレヲ鵞眼枳實ト本草
原始ニ云リ和名ニ茶實様ト云フ偽物多シ皮ノ
色黒メ内ニ穰數多キ者佳ナリ其皮色緑ニメ毛
アリテ内ノ穰數少キ者ハ枸橘ノ小ナルヲ乾タ
ル者ナリ又朱欒(シヤカタラエ)及橘柚(カウジ)ノ小ナルヲ乾タルモノ

アリ宜シク擇ブベシ秋ニ至リ採リ乾タルヲ枳
殻ト云船來數品アリ古渡ノ中藥舖ニテ一萬ノ
様ト呼ビシ者眞物ナレ𪜈今ハナシソノ穰形小
ク數多クシテ十二三アリ今ニ新渡ノ中ヨリ撰
ビ出セバ此品アリ新渡ハ皆大小混雜多シソノ
穰形大ニメ數少ク只六七アル者ハ臭橙(カブス)ナリ又
藥舖ニテ朝鮮枳殻ト呼ブ者ハ回青(ダイダイ)橙ノ小ナル
者ヲ用テコレヲ作ル今切ダイダイト云又薩州
山川ヨリ出ス枳殻ハ先年ハ皆漢種ナレ𪜈今ハ
臭橙(カブス)多シ肥後ヨリ出ス者モ皆臭橙ナリ

一穐旅に月太和　カナツタ

一穐の加くさきつゝ一々名を葛也計和ごゝろ（萬葉紙 [illegible]）、也十四タ或ハ掛[illegible]或ハ不須つゝいとゝ其在と於ける事もいつるもこれ樹々の称根実に至りるを取つてより其の葛也計和ハ毎枝刺多きゆゑ雲実の如く（云ふなり）よれバ又根売の漢名に其実を取りて根売に擬し不須にて九州の地名にて枝名ハ代々の類の酢き糸をも耶といふも中にも上ぶ本なる名の古のい部といつる字のよし何人いひつゝ枝之櫃（丈）粗補ひ加へ枝條縦横に文字を云ふ字となし

いわれ丈許になる二月に葉生し節毎に棘

のこりし其葉も落て新葉を生ず其葉は

一茎に三葉づゝありて其葉の形ち楕る初生の

橘葉に似てまた細かし花ハ五弁の小白花を

開き実を結ぶ實ハ枳殻に類して形のまるく

鞠のごとく表毛やゝありて熟実の時といへど

味臭して酸悪口に入べきにあらず此所西方にいふ

是ぞ真橘也（本草）因按俗にこれを枸橘といふ也（鈴橘）

按に和名鈔玉篇を引て枳似橘而屈曲有也

といへれ共今のからたちの形ハ枸橘に（橘）

録に近時難得枳實人多植枸橘于籬落間収其

実割乾之以和藥味與商州之枳殻遥真矣枸橘又

[illegible]ハ云枳異方

[illegible]云醫而已何必

一種樹葉の中に[illegible]て[illegible]枝のまゝに[illegible]至花

紅紫色なる花を開くもの有之[illegible]とはいへども[illegible]樹

[illegible]又[illegible]商の[illegible]に二小[illegible]

所微大十リ

合歡樹枸橘[illegible]林木蓮ニ異ナラス葉實ノ

雑ニ入故ニ皮ノミヲ乾テ和ノ枳殼ト呼ブ[illegible]

色黄ナリ肥[illegible]ニカナ皮薄クカナリ[illegible]ニ[illegible]

[illegible]十リ作外色[illegible]皮毛ア文[illegible]

ニ入後實アリ結ア小十アル菌ニ子アリ秣ニテ實ニ漉テ[illegible]

[illegible]ニ枝アリテ花ヲ開ク白色五辯大サ寸ニ[illegible]

いたれ丈許にも及ぶ 二月比に至り葉落つくして枝
のさきより新葉を生ず すべて
一茎に三葉ありて 其葉の形ち楕円なる 和名ハ
橘の葉に似て薄くかたし 巡りに五弁の小白花を
開き実を結ぶ 其実柚の実に類して形は小さく
皺ありて実に毛あり 色は青く熟する時ハ黄也 皺ハ
味臭くして酸悪 口に入べからず 此節西京にて
見る真橘也 因て近年（本草）やまきこれを枸橘として又は橘 錄
按に本草綱目 釈名に 枸橘 枳似橘而屈曲者也
といへる真に今の枳からたちの形状ならず 橘

錄ニ近時難得枳實人多植枸橘于籬落間収其
實剖乾之以和藥味與商州之枳幾逼真矣枸橘又
[illegible] り云 枳異方
[illegible] 猶 疾而已 何必
[illegible] つのまなき時も

一種樹葉多く [illegible] 此樹ハ 天竺花
紅紫色を生ず [illegible] 此樹
名不思地天女花 右橘の傍らに二小株 [illegible]
有り [illegible] 紫色の花 [illegible]
されハこれを [illegible] の花の [illegible]
[illegible]
おもふへし

本草啓蒙云枸橘カラタチ俗ニ誤テ枳殻ト呼ビ
藩籬（マガキ）ニ作ル者ナリ木高サ丈餘冬ハ葉ナシ春新
葉ヲ生ス三葉一蔕胡枝子葉ニ似テ小ク厚ク深
緑色ニ〆光リアリ木ニ刺多キ故籬ニ作ル春末
枝梢ニ枝ヲ分テ花ヲ開ク白色五瓣大サ寸ニ近
シ後實ヲ結ブ小ナル者ヲ採テ枳實ニ偽ル皮ハ
厚ケレ𪜈外色緑ニ〆毛アリ秋ニ至テ熟スレバ
色黄ナリ肌細ニ〆皮薄ク切リテハ枳殻ニ偽リ
難シ故ニ皮ノミヲ乾テ和ノ枳殻ト呼ブ
今漢種ノ枸橘アリ形状和産ニ異ナラス葉實ノ
形微ク大ナリ

形
今

いふ也文許よりて二つ三葉多しは落葉也 葵
のことくなりてすゑ新芽の葉を生すれは次第に
一茎に三葉にして立 葉の形は楕なる 初生の
橘の葉に似て要に尖るへし 陰に五弁の小白花を
開き実を結ふ 実は根元に鶏卵の如し その色
緑にして 実毛はまた熟するの時といへとも
味臭くして酸悪也 口に入るへからす 此即西土に云
臭橘也 因て是を俗にからたちといふ（本草）是を枸橘といふ 橘録
按するに玉篇を引て 枳似橘而屈曲者也
といへる也 今の加らたちの形状なりとする 橘
録に近時難得枳實人多植枸橘于籬落間収其
实割乾之以和藥味亦商州之枳殼逼真矣枸橘人
未易多得取朱欒之小者半断之曝以為枳果方
医者不能辨用以治疾亦愈藥貴於愈疾而已何必
辨其真偽耶 ここにいへるかきたる枳実のちいさきを
○此様なるを用て叙して をもし
圖經本草云枳實以商州者為佳近道所出者俗呼
臭橘不堪用
橘録云枸橘色青氣烈小者似枳實大者似枳殼能
治逆氣心胸痺痛中風便血医家多用之

枸橘

本草綱目云枸橘處々有之樹葉並ニ與橘同シ但幹多シ刺
三月開ニ白花青蕊不香結實大サ如彈丸形如ク枳實而殼
薄ク不香カラ人家多ク收種為ニ藩籬ト或ハ收小實偽ニ充枳實
及ヒ青橘皮ニ售ル之ヲ

附録

山橘（山橘也）

多遅比花（多遅比乃花）

特 7
124